

アーカイブ Data Report NO. 49

(2020年9月28日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

デジタルアーカイブのカリキュラムを考える (1)

～デジタルアーカイブの教育の分類とカリキュラム～

デジタルアーカイブ教育研究会

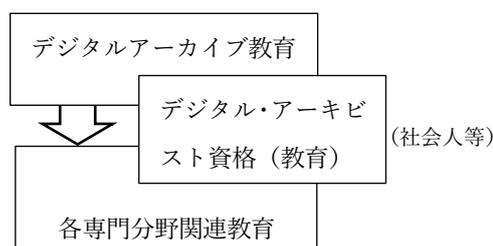
1. デジタルアーカイブの教育の分類

月尾嘉男先生がデジタルアーカイブという言葉が使われ、すでに二十数年になる。その教育研究も大きく発展しだし、今後の二十年で、現状では想像もつかない進展があると考えられる。

2000年の初期は、文化歴史の理解、文化のデジタル化の保障、権利処理、収集、記録、保管、流通、活用が主な課題であった。また、当時は、デジタル化が完全ではなく、収集、記録、保存にも多様な問題があった。

このような状況において、岐阜女子大学は、文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム (現代GP) として「デジタル・アーキビストの養成」(後に、大学院、社会人) が採択され、これを基礎にして2006年に多くの協力を得て、デジタル・アーキビスト資格認定機構を立ち上げた。

当時のデジタルアーカイブおよびデジタル・アーキビスト関連分野のカリキュラムの関係は図のように分類されていた。



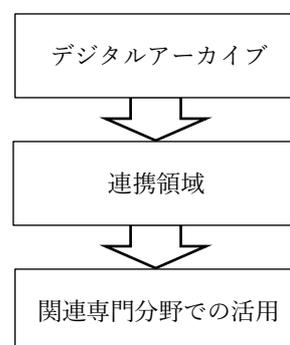
デジタルアーカイブ教育の分類 (構成)

2. デジタルアーカイブ教育のカリキュラムと利用専門分野

2010年頃から、これまでの1機関内から機関相互の保管資料の流通とその利活用が進みだした。たとえば、岐阜と沖縄の連携によるデジタルアーカイブを用いて、デジタルコンテンツの提示、提供、課題解決、知的創造等での活用が進みだした。

その結果、デジタルコンテンツの流通と同時に関連専門分野とデジタルアーカイブの連携領域の教育の必要性が出てきた。

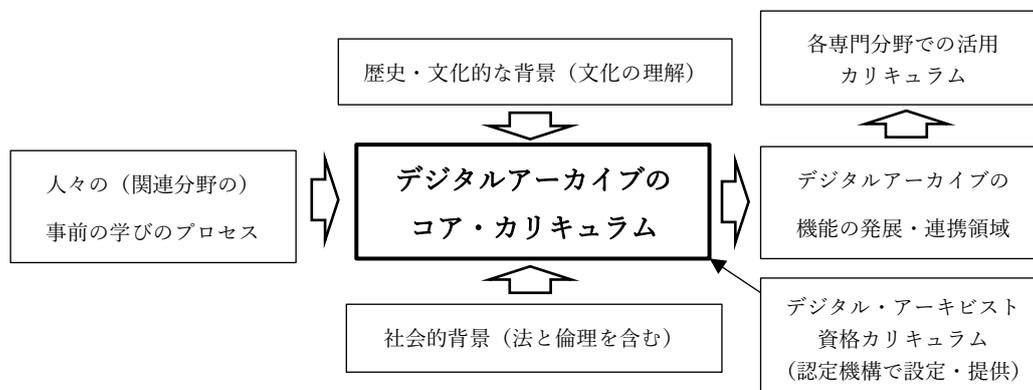
一方、全国的には、ハブ、ポータル等の整備が進みだし、デジタルアーカイブの管理・流通が発展しだし、利活用等の方法から機能の教育の必要性が出てきている。これらに対応したカリキュラムの基礎の開発が現在必要とされている。



三領域のカリキュラム

3. デジタルアーカイブの発展等を配慮し関連科目の設定が望まれる

とくに、デジタルアーカイブを学ぶ人達は、歴史、文化、芸能、学術、産業、医学、教育、生活、さらに災害など社会的背景の広域な理解すべき分野があり、コア・カリキュラムを中心にし、各専門分野等と関連する科目の設定が必要となる。また、必要に応じ資格取得も配慮すべきである。



このような観点から、デジタルアーカイブのコア・カリキュラムと関連分野の構成を検討し、次のようなカリキュラムの開発が必要である。

4. 改定の方法と開発

デジタルアーカイブのカリキュラム開発は、一試案として、次のような方法が考えられる。

(1) 構造化

学習項目の各関係を調べ構造化する。これを時系列より学習的内容の学びの順序で並べて、一連の授業のプロセスを構成する。

(2) 学習内容・行動目標の細目表に達成目標を設定する（改訂タキソノミー利用）

行動 学習	想起する	理解する	応用する	分析する	評価する	創造する	達成目標
⋮							

(注) 資格認定の場合、達成目標は、NPO 法人デジタル・アーキビスト資格認定機構で決め、資格取得用に提供されたカリキュラム（評価の方法も含め）を利用

(3) テキスト、e-learning 等の作成

デジタルアーカイブの学びの展開に対応したテキスト、e-learning の開発をする。

(4) 学びの支援資料……教材、学習資料等の保管と活用

(岐阜女子大学：学修支援資料と主体的活動（研究）資料の保管を進めている。)

(5) 評価問題等（達成目標に対する評価）……学びの状況の評価

(資格としては、デジタル・アーキビスト資格認定機構から提供された評価問題を利用)

(注) カリキュラムの概念 (OECD)：教育目標、教育内容、教材、教授、学習活動、さらに評価の仕方までを含んだ広い概念である。(学習者に与えられた学習経験の総体)